

「空飛ぶ車」開発へ大樹で実験

名古屋企業の関連会社

【大樹】飛行機型の「空飛ぶ車」開発を目指す名古屋市の情報サービス業、キャリアオ技研(富田茂社長)の関連会社が今秋、十勝管内



空飛ぶ車の飛行実験のため、ジュラテクノロジーが導入した超軽量飛行機(同社提供)

データ蓄積、今秋にも

大樹町で超軽量飛行機(ウルトラライトプレーン)の飛行実験を行う。空飛ぶ車に搭載する機体自動制御システム開発のためのデータ確保が目的。

空飛ぶ車は、人やモノを乗せて上空を移動。道路や橋など既存のインフラに頼る必要がなく、渋滞緩和につながるほか、将来の地方の足としても期待されている。国内ではトヨタ自動車本格参入を決めたほか、スカイドライブ(東京)が国内初の有人飛行試験を開始している。

キャリアオ技研は15年前から、空飛ぶ車の自動制御システムの研究

開発を進め、昨年夏、小型の無人実験機の飛行試験を成功させた。

大樹町で実験を行うのは同社が2018年、同町に設立し、富田氏が社長を兼ねる「ジュラテクノロジー」。航空宇宙分野で実績がある町多目的航空公園で超軽量飛行機を有人飛行させ、人間が安心できる加速度、上昇角度などのデータを蓄積。システムに反映させる。9月にも実験を始める。期間は未定。自動制御システムが確立できれば、バッテリーの技術を持つ会社などと技術協力し、将来の空飛ぶ車開発につなげたい考え。富田社長は「人が操縦するデータを基にシステムを開発することで、安心できる空飛ぶ車を実現させたい」と話した。

(大能伸悟)